

1 はじめに

茨城県では GIGA スクール構想の実現に向けて1人1台端末の整備と併せて、ICT の導入や運用が加速しており、誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人が自分の力を最大限に発揮し、伸ばしていく質の高い学びの実現を目指している。ICT を効果的に活用した授業改善に取り組むことで、多様化する社会に対応できるような創造性を育む学びを実践することが期待されている。

また、1人1台端末の整備と併せて、統合型校務支援システムをはじめとした ICT の導入と運用が加速することは、授業準備や成績処理等の負担軽減にも資するものであり、学校における働き方改革につながることも期待されている。

県の研修会では、数年前より県教育研修センターが作成したオンライン掲示板アプリを活用し、オンラインでの授業教材の共有を進めてきた。研修等で作成した学習カードをオンラインで共有し、二次利用を広げていくことで、教員の授業力向上と働き方改革を推進していくことを目的として取り組んできた。

そこで、この試みを県内の研修に参加された教員のみならず、校種を超えた全県の教員に共有するために、高等学校保健体育科教員に対して行った調査(163 名回答)では、現在の働き方について、19%(31 名)の教員が「負担に感じている」と回答し、6.1%(10 名)の教員が「とても負担に感じている」と回答した。負担に感じている理由等に対して、「自分が経験してきた種目以外の学習指導に困難を感じているから」や「時間に追われて教材研究を実施しているから」といった回答が見られた。また、自作の教材を県内の体育科教員と共有することに対して、84.7%(138 名)の先生が「よい」と肯定的な意見を示した。

調査の結果に基づき、本研究は、質の高い学びの実現を目指し、オンラインにおいて教員間の授業教材の共有をととして保健体育科教員の授業力の向上を推進することを目的として行った。

2 方法

本研究では、オンライン掲示板アプリ「Padlet」(図1)を使用し、授業教材の共有を行った。Padlet はテキストを入力しての投稿だけでなく、画像、音声、動画、Word、Excel 等をファイルとして投稿することができるアプリである。シンプルで操作がしやすく、またあらゆるデバイスから簡単にアクセスすることができることが特徴である。

本研究では、県教育研修センターが作成した「学習カード」を共有する Padlet を使用した(図1)。

図1 実際に使用した Padlet の使用画面



そこで、上記の Padlet とは別に、学習指導案や授業動画等の教材を共有する Padlet を作成し、共有するとともに、二次利用ができるように改善した。

これらの Padlet の活用を促し、多くの教員に使用してもらうために以下のアプローチを実践した。

(1) 県高等学校保健体育科教員のメーリングリストの作成

研究協力依頼(Padlet の活用)やアンケート依頼をスムーズに実施するために、茨城県内の高等学校保健体育科教員及び特別支援学校の保健体育科の免許を持つ教員のメーリングリストを作成した。

(2) 県教育研修センターとの連携

県教育研修センターとの連携により、初任者研修や中堅教諭等資質向上研修などの研修に参加した教員に対して、Padlet を使用した授業教材の共有に関する協力依頼を実施した。

また、県教育研修センターが作成した「学習カード版 Padlet」に加えて、学習指導案等の教材を共有する研究部作成の「学習指導案 Padlet」も併せて紹介した。

(3) 授業での使用に関する協力依頼

令和6年2月の県高等学校教育研究会保健体育部研究大会において、県内の高等学校保健体育科の教員に授業で使用してもらうために、授業教材の共有の案内及び事前アンケートの協力依頼を行った。

また、令和6年6月にメーリングリストを活用して、Padlet の URL を周知して利用を促した。さらに、7月に Padlet を使用した学校に対して事後アンケートを依頼し、結果を集計した。

3 実践報告

A高校では、Padlet で共有された学習カード、学習指導案を使用して授業を展開した。

(1) 学習カードの共有

本研究の開始以前に、県教育研修センターで作成した「学習カード版 Padlet」には、高等学校体育科教員だけでなく、県内の中学校体育科教員が作成した学習カードも共有されており、学校の実技等のレベルに合わせて、柔軟に学習カードを選択することができる。また、Padlet にはアップロードしたファイルに対して、相互にコメントができる機能が備わっており、アップロードした学習カードの工夫点や使用上の注意を作成者がコメントとして残すことで、二次利用者が授業で活用する上で有用な情報となっている。(図2)

A高校では、球技に使用する学習カードを実際に Padlet 上から選択し、生徒の実態に合わせて編集し、二次利用を行った。実際に使用した教員からは「自分で最初から考えるのではなく、よいものを生徒の実態に合わせて、さらによいものにしていくことで自分の授業力向上にも、生徒の授業理解にも役立った」との感想が寄せられた。

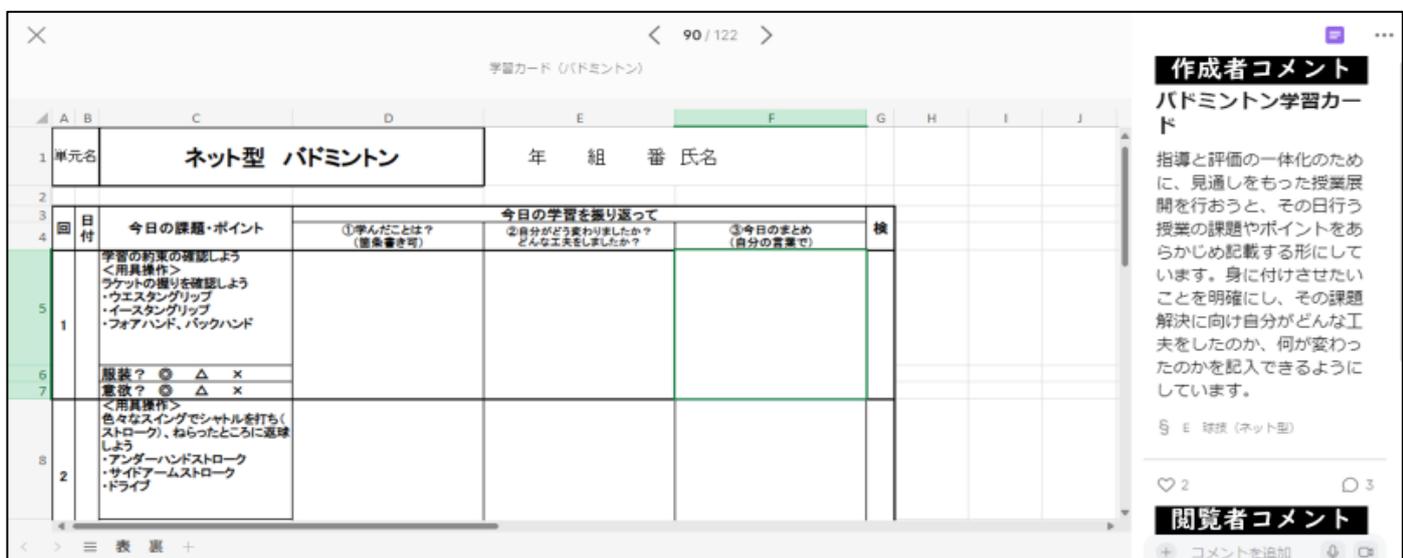


図2 Padlet で共有したファイルに関する相互コメント欄

(2) 学習指導案の共有

多くの教員により研修等の機会で作成された学習指導案が県内の教員の中で共有されることは少なく、各教員が工夫した授業を実施したとしてもその場限りになってしまっている状況にある。

A高校では、実際に Padlet に共有された他校の先生方の学習指導案を基に、授業の工夫や評価規準の設定を参考にして、授業を実践した。実際に活用した教員からは、「学習指導案を確認すると、授業を展開する上で参考になることが多く、授業力の向上に役立った。また、学習指導案を作成する際に、1から作成する必要がなく、学校の実態に合わせて工夫することで、作成時間の短縮につながると感じた」との回答があった。

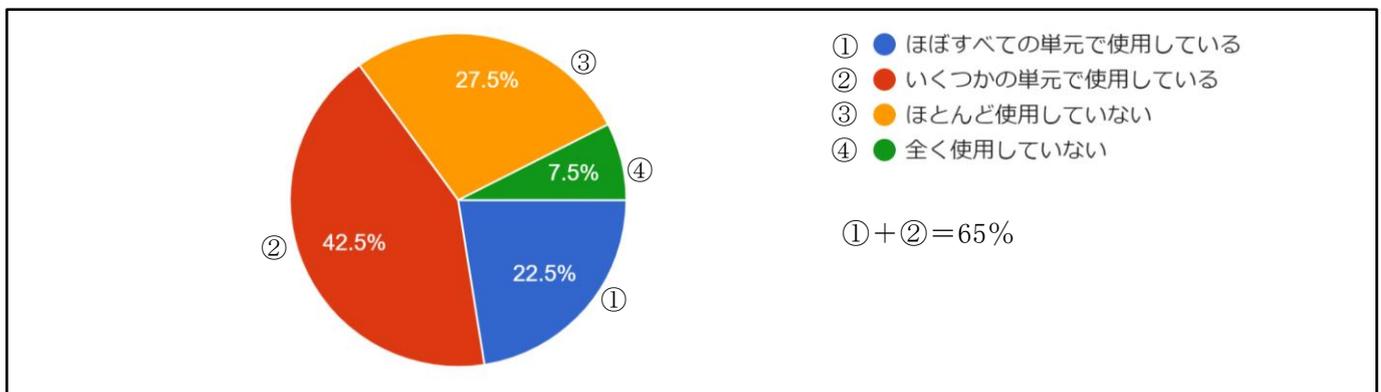
4 結果と考察

(1) アンケートの分析・考察

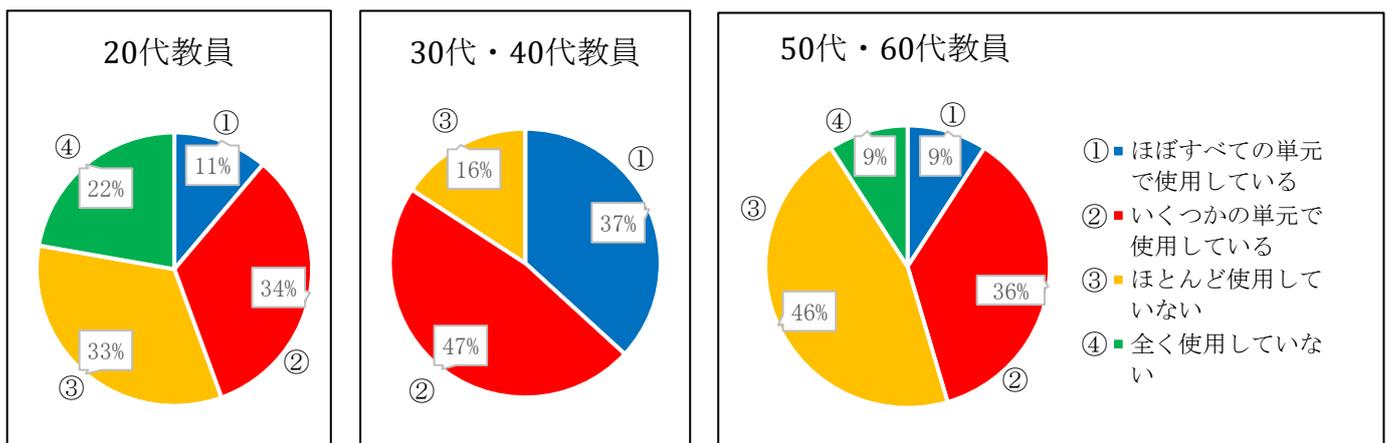
県内の高等学校保健体育科教員(54名)に令和6年7月に事後アンケートを実施した。以下のグラフはアンケートの分析・考察である。

A 教材研究時間の変化

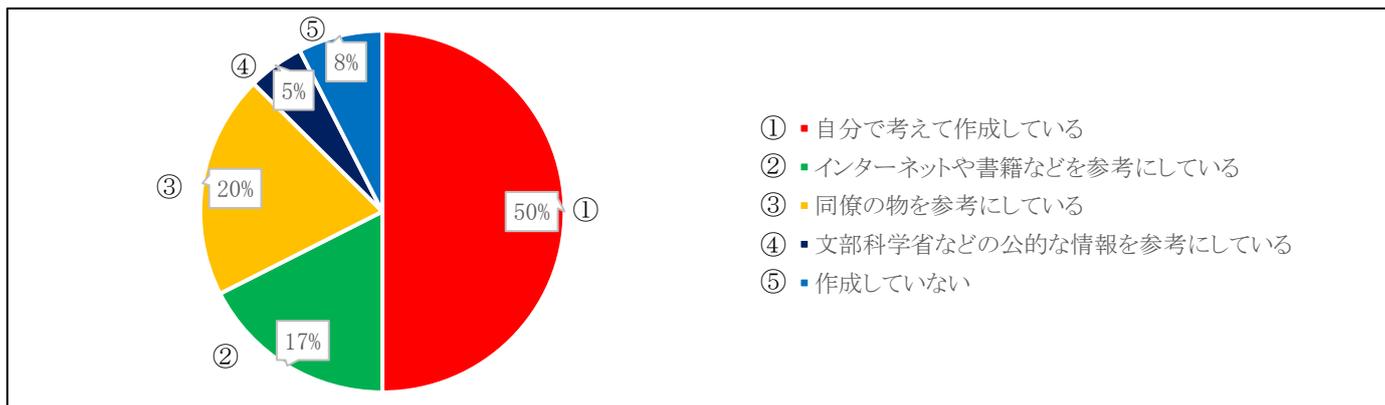
① 体育についてお聞きします。指導と評価に生かすために学習カードを使用していますか？



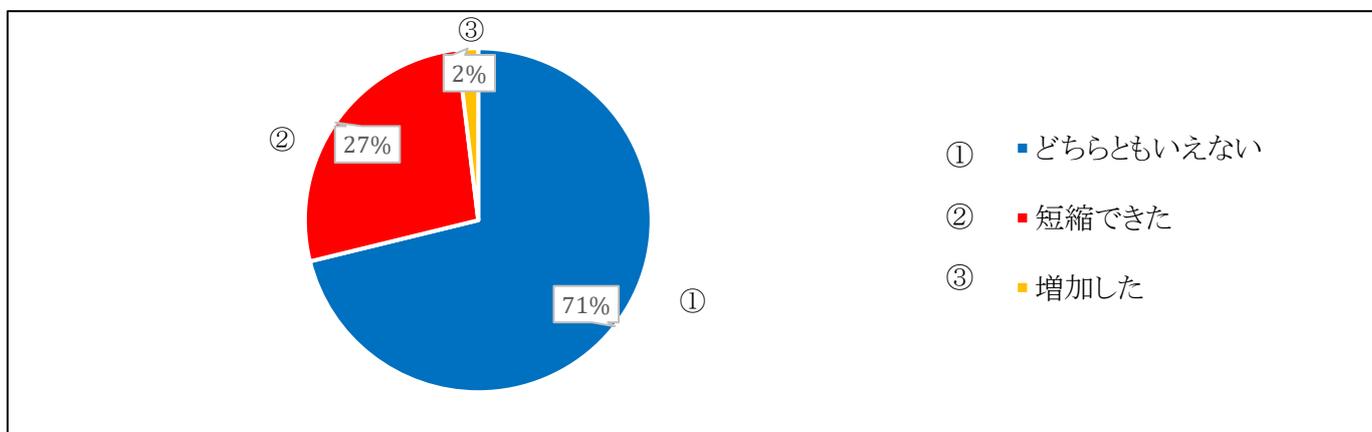
※①に関して、年代別に回答を分析すると、以下のような結果となった。



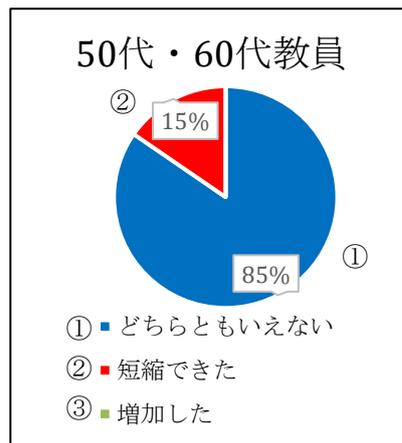
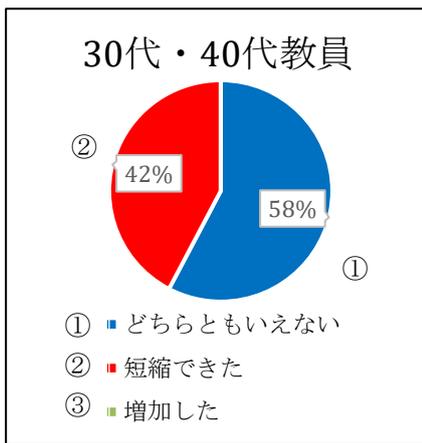
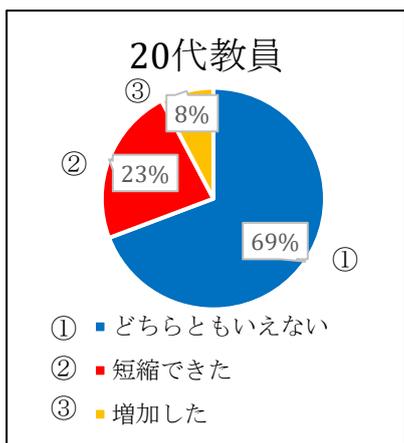
② 普段の学習カードは何を参考にして作成していますか？



③ 「Padlet」を活用した結果、体育の授業準備の時間はどう変動しましたか(事後アンケートより)



※③に関して、年代別に回答を分析すると、以下のような結果となった。



上記のアンケート結果より、以下のことが分かった。

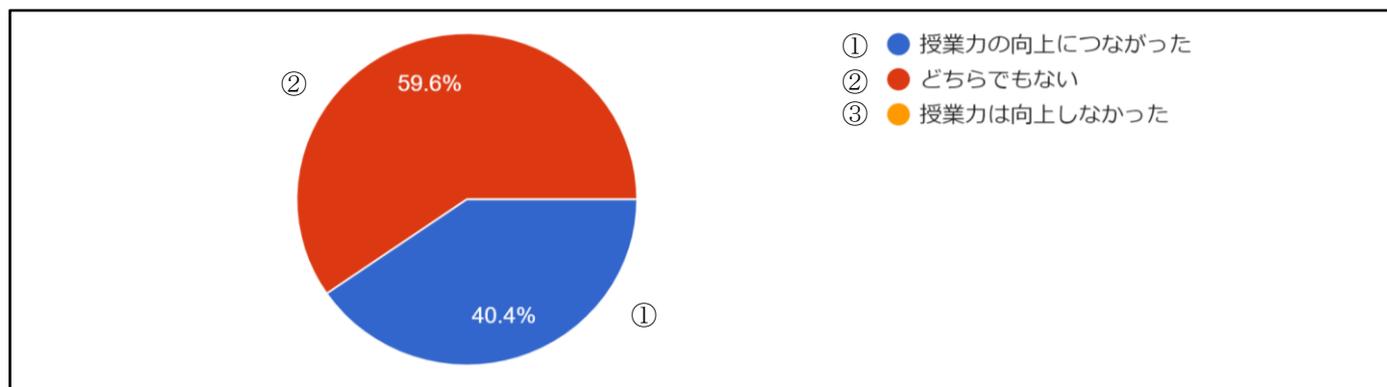
- ・指導と評価のための学習カードは、全体で 65%の教員が使用している。
- ・学習カードの使用率を比較すると、30・40 代の教員の使用率が 20 代・50 代・60 代の教員と比較して高い。使用率の低い原因として、20 代教員は、業務に慣れていないことや、体育科内での意見が通りにくいことから使用

できないといったことが考えられる。また 50 代・60 代の教員はこれまでの学習カードの使用経験やデータの蓄積がなく、使用率が低いことが考えられる。

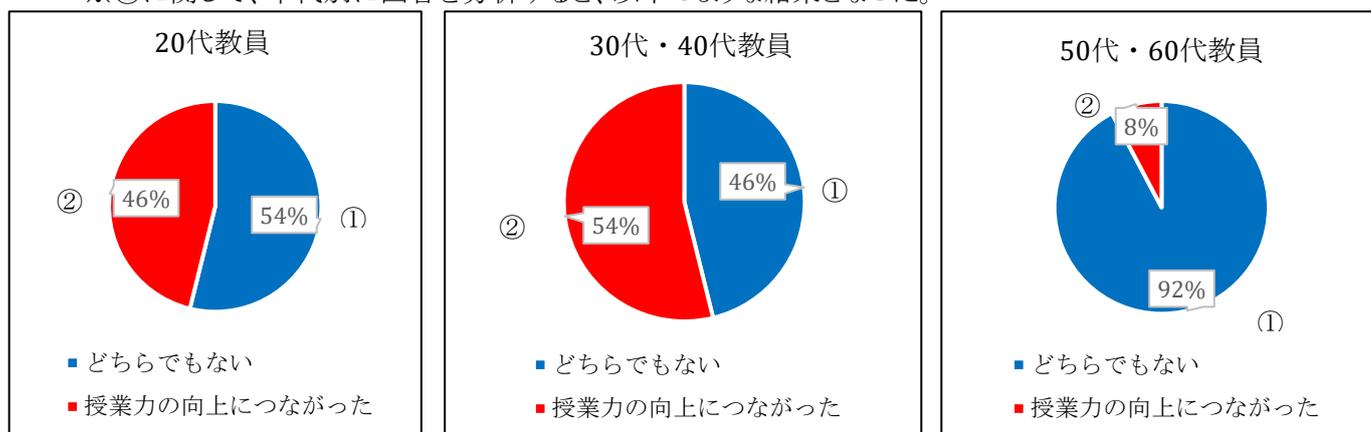
- ・普段の学習カードの作成は、教員が「自分で作成したもの」を使用することが多い。
- ・「Padlet」を活用した結果、体育授業の準備時間が短縮したと回答した教員は 27% であった。
- ・「Padlet」を活用した結果、体育授業の準備時間が短縮したと回答した教員を年代別に見ると、30 代・40 代の 42% の教員が「短縮した」と回答しており、学習カードの使用率が高い年代の教員が授業の準備時間を短縮できる結果となった。

B 「Padlet」を使用した授業力向上・感想等について

④ 「Padlet」で授業教材を共有した結果、自分自身の授業力の向上につながったと感じますか？



※④に関して、年代別に回答を分析すると、以下のような結果となった。



⑤ 実際に「Padlet」での学習教材の共有を実施してみた感想について入力してください。

- ・自分にはないアイデアを発見できたり、学習カード作成の時間短縮につながったりした。
- ・時間短縮になった。他の先生方の努力を見ることができるのでやる気が向上した。
- ・生徒の実態にもよるが、教材を参考にしながらワークシートを使ったり、授業に生かしたりすることができると感じた。
- ・著作権を考えると入れるファイルに制限がかかってしまう。
- ・教材の共有によって、多くの指導のヒントを得られた。
- ・単元によっては、どのように授業を展開しようか悩んでいた際のヒントを得ることができて役に立った。また授業準備の時間を減らすことができた。
- ・まだ実践につなげるまでの取り組みはほとんどできていないが、授業作りにおいて0からのスタートではなく、3割～5割からのスタートができることが大きなメリットだと思う。

上記のアンケート結果より、以下のことが分かった。

- ・本研究で用いた Padlet 使用者の全体で 40.4%が授業力の向上につながったと回答した。
- ・30代・40代の教員では、54%の教員が授業力の向上につながったと回答しており、学習カードの使用率が高い年代の教員に対し、特に効果的であった。

5 まとめ

本研究の結果、オンライン掲示板アプリ「Padlet」を使用した授業教材を共有する取組は、教員の授業力向上に一定の効果があったと考えられる。

「指導と評価の一体化」が求められる今の教育現場で、生徒一人一人の学習状況を明確にし、生徒が自ら学習改善につなげるために、学習カード等の工夫は必要性を増してくる。授業力向上に向けた教員の創意工夫は、教員同士の学び合いの機会につながるということが分かった。さらに、学習教材をゼロから作成する場合と比べて、準備にかかる時間が短縮され、働き方改革の推進にもつながっている。

茨城県では、県教育研修センターが作成したで「学習カード版 Padlet」を活用し、校種を限定せずに保健体育の教材をオンラインで共有する試みを進めてきた。今後は、本研究で使用した「学習指導案 Padlet」の活用を周知し、アップロードする教材の追加に継続して取り組んでいく必要があると考えている。中学校、高等学校の連携・接続が求められていく中で、Padlet を活用して校種に偏りなく教材を共有することは、県内の保健体育科教員のさらなる授業力向上につながると考えている。

茨城県高等学校教育研究会研究委員

吉岡 航(土浦二)	吉田 淳(土浦三)	谷口 実(竜ヶ崎南)	田口 敬二(緑岡)
飯塚 寛子(石岡一)	須藤 崇文(並木中等)	鈴木 奈身(水戸二)	猿田 益美(荖崎)
水落 渉(取手一)	鈴木 麻理(日立商)	肥田 慎平(太田西山)	間中 大介(境)
郡司 康平(石岡一)	山本麻友子(取手二)	夏見 謙人(古河二)	鈴木 雄斗(鹿島)
本多 克成(古河二)	廣瀬 涼子(結城二)		
研究委員長 木谷 僚(牛久)			